

セ ボ ネ

クガヤ

ランティア

ネットワーク



SETAGAYA VOLUNTEER NETWORK

世田谷発！ ボランティア生活発見マガジン
<https://www.otagaisama.or.jp/>

2020.9 No.197

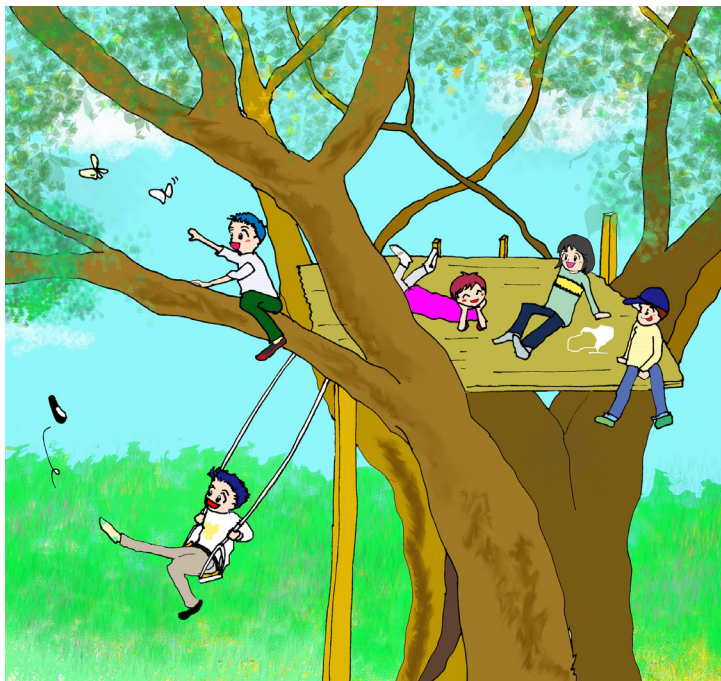
今月のトピック

特集●

人と地球にやさしい街、 フェアトレードタウンをめざして

まちの市民力！ ● ご近所エール隊

キラリ世田谷人 ● 伊藤 祐二さん



イラストレーション●ナミ

多摩川河川敷のあそび場、きぬたまあそび村スタッフ。ツリーハウスとピオトープの再建が楽しみです♡
小中学生の母としても、日々髪を振り乱して奮闘しております。

●わたしの世田谷

母の実家として幼い頃、電車で来ていた世田谷が、我が子の実家になるとは思ってもいませんでした。たくさんの方に見守られ支えられている毎日を実感しています。みんな優しい人ばかりで世田谷すごいな～と思います。

人と地球にやさしい街、フェアトレードタウンをめざして

「フェアトレード」とは、「フェア（公正な）」＋「トレード（商い）」の意味。途上国でつくられた農産物や製品を適正な価格で継続的に購入することで、立場の弱い生産者の自立した生活や生活向上をささえる仕組みです。また、私たちの消費のあり方を問い、環境や人権、貧困、格差の問題の鍵を握る広大な考え方であるとも言えます。

「世田谷を『地域ぐるみでフェアトレードを推進するフェアトレードタウン』のこもたつたお話をうかがう中から、未来に向けて目指す社会をともに考えてみたいと思います。



「世界フェアトレード・デー」イベントが中止に！

毎年5月の第2土曜日は、世界70カ国以上にあるフェアトレード団体が一齐にフェアトレード推進をアピールする日。コロナ禍がなかったら、5月9日には世田谷でも「世界フェアトレード・デー」のイベントが開催されるはずでした。世田谷を「フェアトレードタウン」にすることをめざし活動する「フェアトレードタウン世田谷推進委員会」が、さまざまな団体に声をかけて企画・準備してきましたが、残念ながら中止となりました。

推進委員会は、世田谷区の消費生活課と共に話を進め、三軒茶屋のキャロットタワーで、「エシカルな暮らしが未来をつなぐ」をキャッチフレーズに、世田谷の「エシカル消費」を紹介しようという計画していました。「エシカル消費」とは、ただの消費ではなく人や社

会、環境に配慮した製品やサービスを選ぶ、思いやりのある消費行動のこと。フェアトレードやオーガニック、福祉等の社会問題に取り組み団体のブースを設置し、講演会を開催したり、区内を舞台に参加飲食店がフェアトレード食材を使ったコラボメニューを提供するスマイルプロジェクト「世田谷おいしいもの巡り」の開催を予定していました。中止となっても、ここまで進めてきた事業を活かすため、講演予定だった末吉里花さん（一般社団法人エシカル協会代表理事）のメッセージをウェブサイトに載せて、参加団体を紹介し、「スマイルプロジェクト」は規模を縮小して開催しました（イベントは終了しました）。

参加店舗のひとつ、経堂のカフェ「マレット」で、コラボメニューの「東ティモール産のコーヒール」を味わいながら、推進委員会のメンバーの田中理帆さん、見城佐知子さんのお二人にお話

をうかがいました。

フェアトレードで
まちをつなげられる！

「世田谷をまるごと、フェアトレードタウンにしよう」という大きな構想、いったいどこから思いついたのでしょうか。もともと編集ライターの仕事をしていた田中さんは、2011年に熊本市が日本で初めてのフェアトレードタウンを宣言した時に取材をしたことから関心をもつようになりました。



取材にこたえてくださった
田中さん（左）と見城さん

「フェアトレードを媒介にして、まちをつなげることの可能性に感動しました。街に暮らす人、商店、企業、福祉、教育、医療など、街を形づくるさまざまな分野が、生活や事業に、人と地球を思いやるフェアトレードを取り入れることで、より強くつながるのではないだろうかと思いました」。

田中さんは世田谷で市民活動をしている人たちに出会い、「人と地球を大切に消費を選択する人がもっと増えたらいい」と思い、友人に声をかけ、ワークシヨップグループ「フェアトレードガーズ」を立ち上げました。「毎日の暮らしにちよびりフェアトレードを取り入れれば、人も社会も、もっとハッピーになれる」を合言葉に、フェアトレードのしくみを子どもに伝えるワークシヨップを企画し、出前するなどの活動を行ってきました。

この活動を通して出会った人

に、「世田谷でフェアトレードタウンを目指そう」と声をかけたら、20人近くも集まりました。フェアトレードコーヒーを扱っている中村さん、30年にわたりフィリピンの生産者とフェアトレードを行っているNGO「パクパク・ナティン」の佐藤さん、鳥山で子どもの権利を推進しているNGO「フリー・ザ・チルドレン・ジャパン」、産業能率大学のフェアトレード・サークル「Sanno Fair Friends」、そして「エシカルな（倫理的な）暮らし方を実践している「エシカル・コンシエルジュ」の見城さん。そうしたフェアトレードやエシカルな暮らしに関心を持つ区内の団体や個人が「フェアトレードタウン推進委員会」を2019年4月24日に立ち上げました。この日は、2013年、バン格拉デシユのアパレル工場が入ったビルが崩壊して、1000人以上が亡くなるという悲劇が起こった日です。



東京都市大学名誉教授の中原秀樹氏を招いて、勉強会を行った（2019年10月）

低賃金で過酷な労働を強いた洋服づくりのあり方を考えようということから、推進委員会はこの日を設立の日としました。フェアトレードタウンについて勉強会をしたり、区の産業フェスタに店を出したりして、フェアトレードタウンを目指して着々と駒を進めてきました。

フェアトレードタウン認定は、まちの持続可能性を表す世界的な指標となっています。日本では

2019年12月時点で、熊本市、名古屋市、逗子市、浜松市、札幌市、三重県いなべ市がフェアトレードタウンに認定され、ほかに全国で30〜40の自治体が認定をめざす運動を広げています。

子どもたちが学び、
広げるちからに

「フェアトレード」というと途上国支援のイメージがありますが、「先進国」対「途上国」の話だけではなく、先進国の中の消費のあり方、先住民や移民の人たちとの公正さも語られるようになりました。例えば、日本国内では、海外からの実習生が置かれている劣悪な人権侵害の状況から彼らの働き方を考える機会、ひいては自分の仕事の環境を考える機会にもつながると思うんです」と田中さんは話します。

田中さんは、「フェアトレード」という言葉は家庭科や社会科の教

科書にも掲載され、大学入試の問題にも取り上げられていて、「10代の子どものうちの8割は認知しています。知らないのは大人たち。子どもが学ぶと大人に伝えてくれるんです。子どもの力を信じたいです」と話し、「世田谷区の子どものフェアトレードの購買経験100%」を目指しています。

5月のイベントで、スマイルプロジェクト「世田谷おいしいもの巡り」を精力的に担当した見城さんは、参加の条件について「期間中にフェアトレードの素材を取り入れたメニューを提供すること」をあげ、「コロナの時期、大きく宣伝できないのでチラシも店舗のみで配布し、テイクアウトにも対応してほしいと願いました」と、自らデザインしたすてきなチラシを前に語ります。

さらに、「フェアトレードを知ることがきっかけになって意識が変わったお店もあります。ごみ問題、プラスチックの問題に関心が

広がります」。こういう店が増え、フェアトレードのメニューが定着し、世田谷の「まちぐるみ」でフェアトレードが当たり前になって、それが地域の魅力になったら、それこそフェアトレードタウン。

「子どもたちの人生が変わると思うんです。これはフェア、これはアンフェアということがわかるようになれば、大人になった時に消費者としての選択も変わりますよね」



「セタがや産業フェスタ 2019」、フェアトレードのクイズと実際に手に取れる販売ブースで参加。

フェアトレードから世界をみる

コロナ禍で途上国も影響を受け、ものをつくれなくなっている現状は深刻な問題です。「コロナ禍であってもSDGs（持続可能な開発目標）の動きを止めることはできません。服や食べ物をはじめとした身の回りのあらゆるものが海の向こうから届いていて、どこで、だれが、どうやって、どんな環境でつくったのか。外国に行かない、人と会えない今だからこそ、それらをつくった人たちのことに思いを馳せてつながってほしいと思うのです」と田中さん。見城さんも「消費者は安いものに惹かれますよね。ただ、なぜその値段なのかという、ものの裏側にある見えないところを改めて考える時期ではないでしょうか」と、生産者と消費者をつなぐストーリーの大切さを語ります。

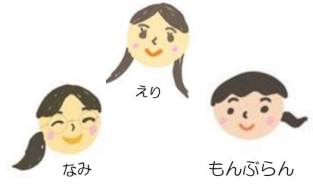
今後コロナ禍の影響が懸念され、11月に予定されていた「セタ

がやエシカル消費展」も中止になって、オリンピックの年に世田谷をフェアトレードタウンにする、という目標は持ち越されました。フェアトレードタウン認定のためには6つの基準を満たす必要があります、そのひとつに「フェアトレードの地域社会への浸透」があります。例えば学校給食に農産物を使わない食材を取り入れること。ニカラグア共和国のゴマ、フィリピンのバランゴンバナナなどを給食に使っている自治体では栄養士さんが給食だよりに書いて伝えているそうで、そういう地道な活動の積み重ねが大切です。

「フェアトレードは見えていない部分を開ける扉のひとつ。それが次の扉が開くきっかけになります」と田中さん。地域にもともとあったつながりの扉を次々と開いていくと、その先に「フェアトレードタウン」となった世田谷が見える。そんな日をめざして活動を続けています。

（編集／編集委員 星野弥生）

力まずいるから、やれること ご近所エール隊



まちの 市民力!!

取材・事務局 大垣内

街の中で地域やそこで暮らす
人たちと一緒に活動している
団体を紹介します



新型コロナウイルス感染症による生活の変化をきっかけに、新たに始まった地域の活動もあります。藤沢えりさん、有川かおりさん、剣持なみさんが中心となった「ご近所エール隊」は、「とりあえず、やってみよう」と、ゆるりと活動を始めました。お話を聞かせていただいた有川さん、剣持さんによると、『脱力したまま始まり、脱力したまま継続中』。

事の発端は今年4月緊急事態宣言の打撃を受け、藤沢さんのお仕事がなくなり「この機会に地域貢献をしたい!」とボランティアアセンターに相談があったこと。藤沢さんは、すぐに当協会が取り組ん

でいた「ハガキで励ましつながら」という企画が合流し、ビデオ会議システム「zoom」を使って子どもたちと一緒にお手紙を書くワークショップに参加しました。ここで2人のお母さん、有川さんと剣持さんと出会い、「この取り組みを紹介し、地域を元気にするような『おうち通信』をつくってみようか」とアイデアが広がって、「ご近所エール隊」が発足しました。

この夏は、次大夫堀公園えのき広場にて、喜多見上部自治会と砦公園管理事務所のご協力のもと、体力低下や生活習慣の乱れなどで朝起きられない子どもたちのために、ラジオ体操にも取り組みました。最初は「3人来ればいいよね」と思ってた始めましたが、口コミで広がり、20名以上集まって距離を保ちながら体操をしました。この取材を通じ、ゆるやかに始まった活動の中にも日頃の問題意識を感じました。「今、社会の中で感じる空気は『こうあるべき』という見えない圧力を感じる時もあります。前例がないことに取り組みもうとする人に、「そんなことをして大丈夫?」と気持ちのブレーキが渦巻いているような…。でも、今回は自由な気持ちのまま、前向きに一步踏み出せています」と話し、「素朴な想いに対して、応援してくれる地域の人たちと、気軽に相談できる窓口があったからこそ、実現できた」とお二人は言います。

『地域の中で小さなつぶやきは、決して小さくない。一步一步行動すれば大きな力になる』と、改めて1人1人の小さな声にも耳を澄ます大切さを実感しています。

■「おうち通信」はこちらで見られます。
<https://ouchiproject.wixsite.com/hagaki>



伊藤 祐二さん
いとう ゆうじ

伊藤祐二さんは世田谷区の職員として働く一方、千歳船橋在住で地域でも個人として様々なボランティア活動をしています。今回、その活動の内容及びきっかけ、ボランティアと仕事がどう関係しているのかお話をうかがいました。

伊藤さんは2016年頃から主に烏山地域での地域活動にかかわっています。そのひとつが、地域住民主体で設立された「烏山地域の力を集める会」。自転車駐輪問題の啓発、防災意識の向上、ユニバーサルデザインの普及啓発・UD映画祭などのイベントの企画・運営に関わってきました。

や せた 人が キラリ

世田谷を中心に活躍する
キラリと光る素敵な方がたを
ご紹介し
取材●市川 徹



インタールのまちづくり・防災担当係長だった時に、「町会・自治会と地域団体とをつなぐ「地域の絆ネットワーク支援事業（現在の「地域の絆連携活性化事業）」の担当として、地域団体と関わることの楽しさを知ったことと云います。地域団体の活性化には外部の人が多く関わっていることが重要と考え、アドバイスやコーディネートをしてきました。

そのことが地域で評価され、2016年の異動の際、地域の人たちから「これからも継続して地域に関わってほしい」と声をかけられることになりました。支える役割だけでなく、自分でも地域活

動をやってみたいと考えていたことから、地域に直接関わることにしました。区の基本方針のひとつとして、「住民自治の確立」参加と社会的包摂（※）が示されています。伊藤さんにとってボランティア活動は、こうした参加と社会的包摂を自ら実践する機会であり、住民と行政がともに活動したら、もっと社会が豊かになるのではと考えています。

伊藤さんは、特に行政職員のみなさんに「もっと自分たちのまじのこを知ってほしい」と言います。まちの風景もハード面だけでなく、歴史的な背景や関わる人の姿も知ると、違って見えてくるのではないのでしょうか。地域活動に参加するためのコツを尋ねると、「地元の困りごとに対応しながら巻き込まれちゃおうかなという気持ちになること」だそう。伊藤さんのように気軽に地域活動に関わる人が増えていくことを期待しています。

※社会的包摂…困難のある人・社会的弱者を社会全体で支える仕組みのことをいう。

おたがいさま

ご相談ください

個別のサポートを必要としている方、ご相談ください

世田谷ボランティア協会では、ボランティアの力を必要としている方と、ボランティアをおつなぎする橋渡しをしています。今、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、人と会ったり、集まったりすることが難しい状況ではあります。困りごとを抱えていたり、どこに連絡したら問題を解決でき

個別の学習支援を必要としている方、ご相談ください

世田谷ボランティア協会では、「発達障がいや学習障がいの傾向があったり、不登校の経験があり、学習の理解の面で苦労をしている」「勉強に向き合つことが苦手。学校の授業についていけない」などの相談を受け、小学生〜高校生の個別の学習支援に取り組むボランティアさんをお探しして紹介しています。

るのかわからないという方は、お電話でご相談ください。

電話でお話ししながら、どんなことができそうか、どんな解決方法がありそうか、一緒に考えます。

●問合せ/世田谷ボランティアセンター
TEL 5712・5101

現在は、新型コロナウイルス感染症防止の為、オンラインでの学習支援にも取り組んでいます。勉強への気持ちや、学ぶポイントなど、本人のペースや特徴を尊重してやっています。お気軽にご相談ください。

●問合せ/世田谷ボランティアセンター 担当 高居・青木
TEL 5712・5101
takai@otagaisama.or.jp

ボランティア求む

東 小学5年生男子と遊んでくれる男性募集

玉川地域の支援級に通う小学5年生の男の子が、土日に一緒に遊んでくれる男性を募集しています。少し多動傾向のある、ゲーム好きで明るい男の子です。一緒にプールへ行ったり、公園で遊んだり、たまにはゲームもできたら嬉しいです。

●日時/都合の良い土曜か日曜、月に1回程度。

●場所/自宅近くの公園、総合運動場プールなど
●条件/大学生〜30歳ぐらいの男性、交通費支給
●問合せ/玉川ボランティアビューロー
TEL 3707・3528
tamabura@otagaisama.or.jp

東 高齢世帯のゴミ捨てをして下さる方募集

一人暮らしの高齢女性の方が、足腰の具合が悪く、可燃ごみを抱えて階段を降り、ごみ集積所までゴミ捨てに行くことが難しくなっています。そのため、ごみ収集日にごみの前に置いてあるごみを、ごみ集積所まで代わりに捨てて下さる方を探しています。ごみ収集日は月曜・木曜ですが、ご都合の合う曜日にお手伝いしてもらえると助かります。詳しくはお問合せください。

●日時/毎週月・木曜日 7時〜7時半の間
●場所/池尻2丁目のご自宅前からごみ集積所まで
●交通/池尻大橋駅徒歩7分
●条件/できれば女性
●問合せ/世田谷ボランティアセンター 担当 高居
TEL 5712・5101
takai@otagaisama.or.jp

世 テレオテープをDVDにダビングする作業を 手伝ってくれる方募集

60代の女性が、家族の思い出や親子で習っていた大正琴の発表会を記録したビデオテープを、専用ソフトを使ってパソコンに取り込み編集し、DVDにダビングする作業をサポートしてくださる方を求めています。

今使っているビデオ再生機能付きテレビが壊れてしまう前に、家族の大切な記憶をDVDに残したいと考えていますが、ひとりでは作業が思うように進まず困っています。作業が軌道にのるまで伴走

してください。と思っています。

●日時/火・水・木・土・日曜の
中で相談。13時〜18時の間で1
時間程度

●場所/ご自宅

●交通/上町駅徒歩5分

●条件/女性。交通費実費(上限
500円)

●問合せ/世田谷ボランティアセ
ンター 担当 青木

TEL 5712・5101
aoki@otagaisama.or.jp

有償スタッフ募集

フルを一緒に楽しく
盛り上げてくれる有償スタッフ募集

『スペースえるる』は18歳以上

の障がいがある人・ない人が「共に」参加し、対等な仲間関係づくりを
目指して様々なプログラムを組ん
で活動しています。

今回は、休日の余暇活動として
のプールを一緒に楽しく盛り上げ
てくれる方を募集します。泳法指
導がメインではなく、個別自由時
間や、全体プログラム(ダンスや
グループ対抗ゲーム)などの時間
を通して、休日の楽しく、リフレ
ッシュできる時間を作っていま

す。

●日時/第2・4週の日曜
9時10分〜12時10分

●場所/狛江あいとびあセンター
4階室内温水プール

●交通/狛江駅徒歩10分

●募集人数/男女各1名

●条件/時給1100円+交通費

●問合せ/NPO法人えるる

担当 堀内

TEL 3480・2808
e-ru-bu@ndpoint.ne.jp

世 子どもの遊び環境を豊かにする！ プレーパークせたがや「プレーワーカー」募集

多年齢層の子どもと一緒に遊ぶ
とともに、遊び場を支える地域住
民ボランティアと一緒に良い
「地域の遊び場」を運営するため
に日々、遊び場のデザイン・遊具
の設計建設・イベント企画実施な
どを行います。また、地域の諸団
体と連携し、子どもが遊び・育つ
環境づくりに関わります。まず
は下記問い合わせ先までご連絡く
ださい。

●日時/2021年4月1日〜

2022年3月31日(2年目以
降、継続の意志がある場合は再
応募可)

●場所/区内4つのプレーパーク

●条件/20歳以上(2021年4
月1日時点)、応募者は必ず事
前に説明を受けてください

●問合せ/認定NPO法人プレー
パークせたがや 担当 渡辺・竹中

TEL 3414・4175
sayou@playpark.jp

http://playpark.jp/recruit

東 難病の方の通勤サポート有償スタッフ募集

関節の炎症のため1人での歩行
が難しい女性教員が、通勤サポー
ト(車の運転および歩行時に荷物
を持つ。片道40分程度)と、仕事
場と自宅でのPC作業(メールチ
ェック等。PCはMAC)を手伝
ってくださいる方を探しています。

また、犬の世話をお願いするこ
とがありますが、おとなしく眠っ
ていることが多いので見守りをお
願います。通勤にはご本人の車
を使用し、道に慣れるまではご本
人が片道を運転することが可能で
す。複数名でサポートしています

が、おひとりが今後活動できなく
なるため、新たに募集しています。

●日時/毎週水曜日10時半〜18時半

●場所/自宅(上野毛)と職場

●募集人数/1名

●条件/1回(8.5時間の場合)
8160円(10200円/時)

●問合せ/玉川ボランティアビ
ューロー

TEL 3707・3528
tamabor@otagaisama.or.jp

講座・その他・募集

小 代田ビューロー近所カフェ 「オンラインでカラオケを楽しみましょう」

50歳以上の方を対象に、ZOOMというシステムを使ってカラオケを楽しんだり、お気に入りの音楽をみんなで聴いて楽しめましょう。オンラインで童謡・唱歌・演歌・J・POP・クラシック等、歌を口ずさんで、カラオケ気分を一緒に楽しめませんか。来館の方は好きな曲を持ってきていただいても大丈夫です。

ZOOMの使い方がわからないという方、50歳未満だけど参加したいという方もお気軽にお問合せ下さい。

- 日時／9月19日(土) 13時〜16時
(時間内出入り自由)
- 場所／ZOOM、または代田ボランティアビューロー1階
- 交通／世田谷代田駅徒歩すぐ
- 参加費／オンライン参加無料、来館者のみ100円(お茶代)
- 定員／オンライン参加定員なし、来館者は6名まで
- 条件／事前申し込み制、来館者はマスクの着用
- 問合せ／代田ボランティアビューロー
TEL 3419・4545
otirabota@otagaisana.or.jp

おたがいさま

小 傾聴ボランティア入門講座 「電話で傾聴」を学んでみませんか

この傾聴ボランティア入門講座は、個人の方と対面や電話で継続的に行う傾聴ボランティア活動のための講座です。話すこと・聴くことを、体験学習を通して、グループで考え、感じながら学んでいきます。あなたも、傾聴ボランティア活動への一歩を踏み出してみませんか？

日時／10月14日、21日、28日(水)
13時半〜16時

- 場所／成城六丁目事務所棟3階
(世田谷区成城6-3-10)
- 交通／成城学園前駅徒歩3分
- 定員／10名
- 参加費／3000円(3回分)
- 申込み／9月14日(月) 10時から、電話でお申し込みください
- 問合せ／砧ボランティアビューロー準備室
TEL 6411・4007

東 せたがやチャイルドライン

①寄付・ご支援のお願い
せたがやチャイルドラインは、18歳までの子どものための電話です。電話を受けるのは研修を受けたボランティアです。イベントの中止により、バザーや手づくり品の販売によって活動資金を確保することが難しくなっています。子どもをささえる活動をささえるために、寄付のご協力をお願いいたします。この夏、3万円以上ご寄付いただいた方に、金額に応じてお礼の品をお送りいたします(左の写真は5万円の寄付の返礼品の一部)。

●郵便振替口座にお願いします。
●口座番号／
00150・8・279963

●加入者名／社会福祉法人世田谷ボランティア協会



②オンライン公開講座
※この口座への寄付は所得税の寄付金控除の対象になります。通信欄に「寄付申込書せたがやチャイルドライン」とご記入ください。

②オンライン公開講座の予定
この講座は「せたがやチャイルドライン」第25期受け手養成講座の一部ですが、どなたでもご参加いただけます。みなさまのご参加お待ちしております！ 詳細はホームページをご覧ください。

●日時／9月25日(金) 5
2021年1月16日(土) 全8回
※9月12日(土) 15時〜17時
オリエンテーションがあります。

●開催方法／WEB会議ツール「Zoom」を使用して実施。ただし、第8回のみボランティアセンターにて集合形式。

●参加費／1講座2000円

●申込み／メールで申込み

●問合せ／せたがやチャイルドライン事務局
TEL 5712・5101
childline@otagaisana.or.jp
https://www.otagaisana.or.jp/

小

もつと語ろう不登校 Part 248

これまで25年にわたって、さまざま方々の分かち合いの場となってきました。「自分だけではなかったんだ」と知るだけで心が軽くなります。初めての方も、お誘い合わせの上、どうぞお気軽にご参加ください。

●日時／9月12日（土）14時～

●場所／NPOフリースクール僕んち（代田4・32・17）またはZOOM会議にて

●交通／梅ヶ丘駅徒歩10分

●条件／事前申し込み制

●問合せ／世田谷こどもいのちのネットワーク第3分科会「もつと語ろう不登校」担当 高橋

090・3905・8124

fbtoru@yahoo.co.jp

東 ヒューマンライブラリー入門講座

ヒューマンライブラリー（HL）は、障がい者、LGBT、難病、依存症、外国人など偏見や誤解を受けやすい人が「本」になり、人数の一般読者の方に人生活を自己開示する対話イベントです。相互理解を深め偏見を低減するイベントとして、国内各地や世界中で実践されています。この講座は、HLについて詳しく知りたい方、開催してみたい方などを対象にした入門講座です。

●日時／9月27日（日）14時～15時半

●場所／世田谷ボランティアセンター

●交通／三軒茶屋駅徒歩12分

●参加費／500円（資料代）

●募集人数／3人まで

●申込み／氏名、お仕事、住所、連絡先を明記してメールでお申し込みください。

●問合せ／東京ヒューマンライブラリー協会 担当 坪井

090・4751・6942

tsubo912@gmail.com

http://tokyo-humanlibrary.com

『災害ボランティアコーディネーター養成講座』オンラインで開講

災害ボランティアコーディネーター養成講座のオンライン化が決定しました！

基礎編に続く講座も順次、オンラインで講座を行う予定です。いつでも、どこでも受講できますので、ぜひご参加ください。

🎥【PR動画】
9月初旬公開予定

🎥【養成講座「基礎編」】
9月下旬公開予定

せたがや
災害ボランティアセンター

災害ボランティア
コーディネーター
オンライン養成講座

せたがや災害ボランティアセンター

🔍 検索

世田谷ボランティア協会の活動・支援拠点

●「市民が主役」のボランティア活動の拠点●

- 世田谷ボランティアセンター 〒154-0002 下馬2-20-14 TEL (5712)5101 FAX (3410)3811
- 梅丘ボランティアビューロー 〒154-0022 梅丘1-8-9 TEL (3420)2520 FAX (3706)2854
- 代田ボランティアビューロー 〒155-0033 代田2-20-6 TEL (3419)4545 FAX (3412)3210
- 玉川ボランティアビューロー 〒158-0094 玉川2-1-15 TEL (3707)3528 FAX (3708)3058
- 砧ボランティアビューロー準備室 〒157-0066 成城6-3-10 TEL (6411)4007 FAX (6411)5888

●いのちを大切にすると「ふらっと」&「with」です●

- ケアセンター「ふらっと」 〒154-0002 下馬2-20-14 TEL (5712)5105 FAX (3410)3813
- ケアセンター「with」 〒154-0002 下馬3-22-13サザン三軒茶屋1F TEL (6805)4715 FAX (6805)4718

●くらしを紡ぎ、わかちあう「結」と「連」●

- ケア相談センター結(ゆい) 〒154-0002 下馬3-22-13サザン三軒茶屋2F TEL (5433)2830 FAX (6383)2156
- ケアステーション連(れん) 〒154-0002 下馬3-22-13サザン三軒茶屋2F TEL (6805)4716 FAX (6805)4718

●障がいにとまなう「困った！」を話せるところ●

- 地域障害者相談支援センター ぽーとせたがや 〒154-0002 下馬3-22-13サザン三軒茶屋2F TEL (6804)0405

●でんわだから、はなせるネ！ 18さいまでのこどもせんようでんわ●

- せたがやチャイルドライン こどもせんようでんわ TEL (3412)4747 0120-99-7777(フリーダイヤル)
*事務局は世田谷ボランティアセンターにあります

拠点は今… 今月のおススメ！

◆センター&ビューローより

砧地域での「傾聴ボランティア入門講座(10月実施)」の受付が始まります。コロナ対策をしながらどんな形で実現できそうか、日々知恵を絞っています。オンラインを活用した講座も少しずつ始めていきます。

◆ふらっと& withより

猛暑とコロナからひっそり身を縮めながらも、坦々と集います。「密」です。日々のケアに防護服はありません。できる限りの対策しつつ、笑い声が聴こえる時、変わらぬ日常を殊の外かみしめる夏です。

◆結・連より

介助を必要としている人がいます！世田谷を走り回っています。ヘルパー募集継続中です！

◆チャイルドラインより

9月25日から受け手養成公開講座が始まります(10ページ参照)。今年度は主にオンラインでの開催です。また、あたたかいご寄付をいただき、ありがとうございます。引き続き募集していますので、ご支援をお願いします。

編集後記

- 「フェアトレード」というと途上国支援と理解していましたが、5月のイベントの出展団体にはよく知っている福祉団体の名前もあり、フェアトレードやエシカル消費のイメージが広がりました。
- 先月号で区内福祉施設の自主生産品「はっぴいハンドメイド」をご紹介します。その記事を見た方から施設にクッキーの注文があったそうで、とてもうれしいニュースでした！
- 今年も猛暑続きの夏でしたね。ふう。(み)

- 発行
社会福祉法人
世田谷ボランティア協会
〒154-0002
世田谷区下馬2-20-14
TEL 03-5712-5101
FAX 03-3410-3811
- E-MAIL
setabora@otagaisama.or.jp
- ホームページ
<https://www.otagaisama.or.jp/>
- 発行人
横山 康博

